連載

健康だからこそ健診（検診）を受けよう

山口大学・山口県立大学名誉教授　江里 健輔

台風と病気、全く関係ないように思われるかもしれませんが、「早期対応」という点からみれば、酷似しています。

令和元年に東日本を直撃した台風19号は想像を絶する被害をもたらしました。「横殴りの雨が降っていた時、腰が悪く、歩くこともままならない父親に息子さんが『大丈夫か』と電話したところ『今のところ大丈夫』。そのやりとりが最後になった」という報道がありました。災害を経験されたことのない方には「瞬時に水が押し寄せる」ことはとても理解出来ないでしょうが、「命」を守るためには水が流れてくる前に安全な場所に避難しなければなりません。

病気も同じです。症状が現れたらでは遅いです。ガン細胞が1ｃｍの大きさになるには10年から15年かかります。しかし、1cmから2cmになるには僅か1年しかかかりません。2cmになれば、ガンはすでに進行（進行ガン）して他の臓器に転移している可能性があります。当然ですが、進行ガンの生存率は原発巣の臓器にもよりますが、極めて不良です（ステージⅣ度の10年相対生存率は女性乳ガン16%、大腸ガン11.6%、胃ガン6.9%、非小細胞肺ガン2.0%、子宮頸ガン16.9%）（nhk.or.jp引用）。

昭和40年頃には早期診断は不可能でしたが、医学・医療の進歩により、比較的簡単に早期診断が可能となりました。

因みに、

胃ガン：内視鏡検査　／　肺ガン：レントゲン、CT　／　大腸ガン：便潜血反応＋内視鏡検査

乳ガン：マンモグラフイ　／　子宮頸ガン：細胞診

などの検査で、早期診断が可能です。これらの検査は体に過剰な負担を強いることなく施行できます。

今では、ガンは「治せる病気」です。そのために必要なのが「早期発見・早期治療」で、その手段が「ガン検診」です。国は乳ガン、大腸ガン、肺ガン、胃ガン、子宮頸ガンなどは健診（検診）による早期発見・早期治療で死亡率を下げる効果があることが確認されたことにより、健診（検診）受診を積極的に推奨しています。ところが、健診（検診）を受ける人が少ないのは残念なことです。

2022年度の山口県の検診受診率は、胃ガン28.8%（全国平均36.5%）、子宮頸ガン34.9%（43.6%）、乳ガン34.8%（47.4%）と全国平均を大きく下回り、いずれも全国最下位の受診率です（nordot.app引用）。

山口県の平均寿命が、男女とも全国平均を下回っていることが、健診（検診）受診率と関係あるかどうかは判りませんが、山口県人は助かる命を自ら放棄しているのです。

昭和40年代は「ガン」＝「死」でしたから、ガンの告知はされていませんでした。例えば、胃ガンは悪性胃潰瘍という病名で治療していました。次第に病状が悪化するにつれて、治療の副作用だから、という迷言で患者さんを説得していました。患者さんも真実を知ることが怖くて、「病名を教えてください」という質問はされませんでした。やはり、死の宣告を受けることを避けたかったのでしょうか？

ガン検診を受けない理由にはいろいろありますが、平成26年度内閣府がん対策に関する世論調査で最も多い理由は

①受ける時間がない　②経済的負担　③「ガン」であると分かるのが怖い（40%）　でした。早期発見・早期治療では治療後の補助療法も必要ありませんので、医療費も少なく、体への負担も軽くなります。

「ガン」＝「死」の公式は過去のことで、「ガンは治る病気」です。「今はどこも悪くないから」と健康だと思っている人こそ健診（検診）を受けるべきです。自分の体は自分で守る、これが健康で生活する「基」となります。

全国健康保険協会 山口支部
協会けんぽ

協会けんぽ　山口支部　検索

〒754-8522
山口市小郡下郷312番地2 山本ビル第3
TEL：083-974-0530（代表）
受付：平日8:30～17:15